



情報セキュリティの普及啓発に関する論点

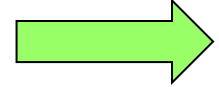
情報セキュリティ普及・啓発プログラムの構成

普及啓発の対象ごとの現状と課題

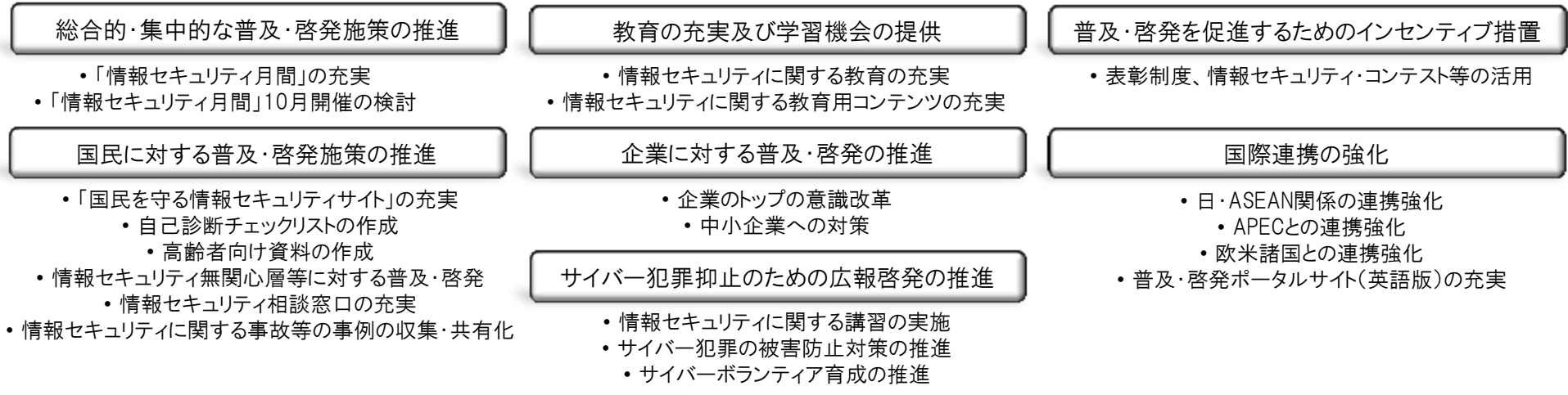
例：高齢者→分かりやすく伝えるための工夫が必要
企業→経営者が率先して対策に取り組む必要



目標：「情報セキュリティ文化」の定着



手段：「具体的な取組」として約20の施策を列挙



論点

- 「情報セキュリティ普及・啓発プログラム」に盛り込まれた具体的な取組の内容や実施方法等について、普及啓発の対象ごとの課題の克服に向けた効果的な取組とするためには、どのようなことに留意すればよいか。特に、官民連携による取組の強化という観点では、どのような実施方法等が考えられるか。
- より適切な取組として、どのようなものが考えられるか。

一般国民

- 国民一人一人に届く適切な普及啓発の方法として、どのようなものが考えられるか。
ex) 情報セキュリティ月間等全国規模の普及啓発イベントの実施、マスメディアの活用
- いたずらに不安感をあおることなく必要な情報を提供するためには、どのようなことに留意したらよいか。
ex) 平易な言葉による情報提供、親しみやすいコンテンツの活用
- 多種多様な情報通信技術とその発展に対応した情報セキュリティ対策を講じることができるようにするためには、どのような内容・タイミングで普及啓発を行うべきか。
ex) 新たな技術の誕生の都度実施、情報セキュリティの本質に着目した普遍的内容の情報を提供

情報セキュリティ無関心層※

※ 情報セキュリティについてのリテラシーや関心が低い層をいう。

- 情報セキュリティ対策への関心を高めるための取組として、どのようなものが考えられるか。
ex) 入口としてのITサービスの仕組みを知る機会の提供、初心者向け講座の充実
- 情報セキュリティに関する相談窓口をより利用しやすいものにするためには、どのようなことに留意したらよいか。
ex) 窓口間の連携の強化、Q & Aの充実
- ウィルス感染等により知らない間に他者のウィルス感染等に加担してしまう可能性があることの理解を促進するためには、どのような内容・方法で普及啓発を行うべきか。
ex) 事故・トラブル事例を基にしたコンテンツの活用

高齢者

- 平易な言葉で分かりやすく情報セキュリティ対策に関する情報を提供するための取組として、どのようなものが考えられるか。
ex) 高齢者向け資料の作成、シニアボランティアの活用
- 高齢者向け資料等の作成に当たって、具体的にどのようなことに留意したらよいか。
ex) 用語の解説の付記、ビジュアル面での見やすさの確保
- 高齢者の生活様式に則した普及啓発を行うためには、どのようなことに留意したらよいか。
ex) 出張形式の講演の実施、バリアフリー施設の活用

教員

- 児童・生徒に教える側として十分な情報セキュリティに関する知識を向上させるための取組として、どのようなものが考えられるか。
ex) 教員向けセミナー、研修の実施
- 教育機関全体として情報セキュリティ対策への関心を高めるための取組として、どのようなものが考えられるか。
ex) 学校長等に対する対策の重要性の訴求

児童・生徒、家庭

- 発達段階に応じた適切な教育を行うためには、どのようなことに留意したらよいか。
ex) 発達段階ごとの資料の作成、体験型教育の実施
- 児童・生徒向けの教育用コンテンツの作成に当たって、具体的にどのようなことに留意したらよいか。
ex) 身近なシーンを題材とする、映像・動画の活用
- 家庭における情報セキュリティ対策に関する教育を効果的に行うための取組として、どのようなことが考えられるか。
ex) 学校による家庭への働きかけ、保護者を対象とした講演の実施

企業

- 企業経営者の情報セキュリティ対策に関するモチベーションを高めるための取組として、どのようなものが考えられるか。
ex) 企業経営者向けの講演の実施、企業経営者同士が情報交換できる場の提供
- 企業に働きかけるに当たって、具体的にどのようなことに留意したらよいか。
ex) 情報セキュリティ対策と利益との関係の説明
- 派遣社員やアルバイト従業員等まで情報セキュリティ対策について周知徹底するための取組として、どのようなものが考えられるか。特に、人的資源の少ない企業についてはどうか。
ex) 従業員向け教材の作成・配布、中小企業向けセミナーの充実



普及啓発全般に関して

- 普及啓発を行うべきターゲット層を知らないの良い啓発は行えないと考える。対象とする相手を誰とするか議論していく必要がある。
- セキュリティに興味がない人に対して、「セキュリティ」という言葉は利用者を構えさせてしまうため、当事者であることをイメージできる言葉を使うことが重要ではないか。
- 万人向けの対策を提示しづらい部分も、セキュリティの難しいところではないか。
- 被害者にならないという意識と同時に、加害者にならないという意識づけも必要ではないか。

教育に関して

- 知識を受け入れやすい子供の頃からのセキュリティ教育が重要。普及啓発のターゲットとしては、中学生では遅いので、小学生の頃から始めるべきではないか。
- 学校の校長先生の共通の関心事は、生徒の個人情報保護であり、対策実施について統一的な基準がないため指針が必要。
- 教育現場におけるセキュリティに係る統一的な基準や指針を明確にして、メッセージとして伝えていく必要があるのではないか。
- 情報教育を行う体制と体力を確保する必要があり、さらには保護者及び生徒に必要性を認識させなければならないのではないか。
- 学習指導要領の改訂が行われ、小中高すべての生徒に対して情報教育を行っていくこととなったが、どのように先生に動いてもらえば良いのか不透明な状況。
- 先生が保護者及び生徒に対して教えるのではなく、一緒に考える場を提供することが重要ではないか。

保護者に関して

- 保護者層は、インターネットに恐怖感があり普及啓発が進まない。さらに、父母会や学校の講習会に参加しない人は、セキュリティに関しても意識が低い。
- 保護者は、自分の子供が犯罪等に巻き込まれないかということに心配し、携帯電話やSNS等とどのように付き合っていけば良いかということに悩みを持っており、指針を求めている。
- 理解することを拒否していると見受けられる保護者が存在する。メディア等と連携してトレンドとして認知させる状況を作り出せないか。

企業に関して

- 企業のシステム管理者、開発者は、セキュリティの重要性を認識していると思われるが、企業の一般の利用者は、まだまだセキュリティに対する関心が低い。
- セキュリティ・サービスを利用していない顧客がウイルス等の被害に遭う傾向が高い。企業としては啓発していくことに限界を感じているため、リスクをきちんと理解してもらうことも重要。
- 協力会社及び取引会社からしてみると、様々な企業から企業ごとのセキュリティ・ポリシーに基づいた基準を提示される現状にある。社会全体に通用する統一基準が必要ではないのか。

方法論に関して

- セキュリティの知識を持っている人でも、対処療法的に対策を行っている現状にある。包括的な対策をメッセージとして伝えていく必要がある。
- 地道な活動とメディア等を利用したシンボリックな活動を併せて推進することが必要ではないか。
- 政府キャンペーンで失敗した事例を振り返ると、様々な参会者が様々な議論の末、明確なメッセージを打ち出せなかったことが原因だと考える。「チーム・マイナス6%」のような成功事例を研究して推進していくべきだと考える。
- 「めざましごはん」プロジェクトでは、勝ち組・負け組みのような個人が興味のある問題を、朝ごはんを食べる・食べないことに文脈をつなげるような検討を進めている。活用できる一つの例ではないかと考える。
- 抽象的な啓発では効果がなく、事例などを踏まえた具体的な啓発を行っていくことが重要かつ効果的ではないか。
- 情報セキュリティ月間については、意識を持ってもらう契機として推進し、その後、年間を通じた活動を行っていけるような体制が必要ではないか。
- 入り口を強化していくべきではないか。携帯電話であれば、契約時にチェックシート等を利用して正しいコンテンツ・フィルタリングの理解を促進し、インターネットであれば、ISPと連携して工夫できるのではないか。